

人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。



六合小学校6年
櫻木 麻耶さん

思いやりの心が特效薬

今、世の中では、新型コロナウイルス感染症が広がっています。日本では、約55万人の方が感染し、約1万人の方が亡くなっています。ウイルスは目に見えず、どこで感染するのか分かりません。自分も感染しないか不安でいっぱいです。新型コロナウイルス感染症が拡大してから、出かける時や学校では、マスクを必ずしないといけなくなりましたし、遊びに行く時は、消毒液を持ち歩くようになりました。これまで以上に手洗いうがいもしています。

学校では、三密をさけるなど様々な制限がある中、勉強しています。友達とも気軽に遊べなくなりました。また、友達と大声で話したり楽しくおしゃべりをしながら給食を食べたりするなど、今まで当たり前だったことが当たり前でなくなっていました。

友達の存在やいろんな人とふれ合えることのありがたさも身にしみて感じています。そんなある日、テレビを見ていると、あるニュースが私の目に留まりました。それは、「コロナ差別」についてのニュースです。コロナ病棟に勤務する看護師を母にもつ小学生が、新型コロナウイルスに感染していないのに学校で友達から、「コロナにかかると近づくな」と、いじめを受けたというニュースでした。そのニュースを見て、私は、おどろきました。もし、自分が新型コロナウイルスに感染したら、病院で治りようしてもらうしか方法はありません。医りよう従事者の方々は、自分も感染の恐れがある中、一生懸命に治りようにあたられています。そのおかげで、50万人くらいの人は回復することができています。

がんばって働いてくださっている医りよう従事者の方々に支える家族の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。それなのに、差別を受けるのはおかしいことです。正直私も、この新型コロナウイルスに感染するのはこわいし、だけれだってこわいと思います。このこわさや心配が、差別につながっていると思います。現在、世界中で新型コロナウイルス感染症のワクチンや薬の開発が行われ、日本でもワクチン接種が始まりました。薬やワクチンは感染症を予防したり、治したりすることはできると思います。しかし、人の心を傷つけたり、差別をしたりする心までは治せません。大切なのは、「もし、自分が新型コロナウイルスに感染症にかかったら、自分が医りよう従事者だったら、自分が感染者に関係して

いたら、どつとして欲しいのか」と、相手の立場になって考えることだと思います。このことを忘れず、私も自分の言葉や行動に気をつけていきたいと思っています。そして、この気持ちをみんなが持つようになれば、自分勝手な考えで相手を傷つけたり、差別したりする人が減ると思います。

【先生からの一言】

「差別」は人の弱い心から始まることに気付き、思いやりのある行動をしていきたいと訴える麻耶さんの主張に、人権意識を持つことの大切さを再認識させられます。

6 / 15
2021.No.387

広報やながわ 令和3年6月15日号 No.387

●発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1
●編集 総務部企画課広報広聴係 (直通) ☎0944-77-8425 FAX74-5520
●URL <https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/> ●e-mail kouho@city.yanagawa.lg.jp

「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人から読めるように、ユニバーサルデザインを導入しています。



新型コロナワクチン接種開始

高齢者を対象にした新型コロナワクチン接種が、5月26日に市内の医療機関で始まりました。まず、年齢が高い85歳以上の接種を開始。よこち小児科医院(横地一興院長)では、初日に6人が接種を受けました。10月に生まれるひ孫を抱っこしたくて予約したという原田トキエさん(90歳、上宮永町)は、「あつという間に終わってほっとした」と話しました。市は、6月14日に75歳以上の接種を開始。引き続き、年齢が高い人から順番に接種を進めていく予定です。

CONTENTS	ページ
新型コロナ関連情報	2
熱中症対策	3
春の叙勲、COOLCHOICEほか	4-5
お知らせ掲示板	6-7
人権・同和教育シリーズ	8